令和４年８月３１日

学校だより

９月号

横浜市立美しが丘東小学校
学校長　　藤本　光子

ホームページ　http://www.edu.city.yokohama.jp/es/utsukusigaokahigashi/

手を離して成長を支える

校長　藤本 光子

学校に元気な声が戻ってきました。昨年度、夏休み明けより分散登校となってしまったことを思い出すと、子どもたちが大きな制限なく登校できることの幸せを改めて感じます。

今回は、夏休み前の私の失敗をお知らせしたいと思います。

ある朝、1年生の植木鉢が置かれているスペースを覗いてみると、一人の子が「校長先生、ちょっと来て。大変。」と私を呼びました。見てみると、一つの植木鉢の周りに人だかりができています。「〇〇さんのアサガオが枯れちゃったの。」見たところ、枯れている様子は見られません。「どうしてそう思うの。」と聞いてみると、子どもたちは、ある葉を指さしました。なるほど。その葉は今から開こうとしている葉で、小さく丸まっています。きっと開きかけの葉が枯れているように見えたのでしょう。このアサガオの育て主は、「ちゃんと水をあげたのに。」としょんぼりしています。私は安心させようと、「大丈夫だよ、これは枯れているんじゃないよ。」と声をかけた瞬間、ハッとしました。なんて余計なことを言ってしまったんだろう・・・。側にいた子から、「もしかして、つぼみ？」という質問がありました。私はあわてて「明日、この葉がどうなっているか見てみようね。」と答えました。

子どもは、毎日アサガオの世話をすることで、その変化をしっかりと、細かなところまで自分の目で捉えているのです。だから、私が枯れていないことを伝えなくても、ちゃんと自分でその事実にたどり着くことができたはずです。きっと、次の日にその丸まった葉が大きく広がっているのを見て感動したことでしょう。私は子どもに話しかけられてついうれしくなり、大人の知識を使って心配を取り除こうとしてしまいました。子どもが自分で気づく最大のチャンスを奪ってしまったのです。「枯れたのかな。」と一緒に悩んであげるだけでよかった・・・とひどく後悔しました。夏休みの間もそのことが気にかかり、今後は、子どもたちが自分で見つけ、自分で考え、成長できる機会を安易に奪わないように、と改めて心に誓いました。

乳児は　しっかり　肌を離すな
幼児は　肌を離せ　手を離すな
少年は　手を離せ　目を離すな
青年は　目を離せ　心を離すな

これは、「子育て四訓」という言葉です。小学生は3行目です。

これから子どもたちは、たくさんの新しい学習や体験行事を迎え、つまずくことも増えるでしょう。どうか、手をかけすぎず、しかし、目は離さずに、必要なときには手を差し伸べながら、成長を支えていただけたらと思います。